

2008年度 原著論文

- Kubo M, et al. Secular trends in the incidence and risk factors of ischemic stroke and its subtypes in the Japanese population. Circulation 118:2672-2678, 2008
「日本人におけるタイプ別に見た脳梗塞発症とその危険因子の時代的变化」
- Ninomiya Y, et al. Impact of kidney disease and blood pressure on the development of cardiovascular disease: an overview from the Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study. Circulation 118:2694-2701, 2008
「慢性腎臓病と血圧が心血管病発症に及ぼす影響: the Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study」
- Arima H, et al. High-sensitivity C-reactive protein and coronary heart disease in a general population of Japanese: the Hisayama Study. Arterioscler Thromb Vasc Biol 28:1385-1391, 2008
「わが国の地域住民における高感度C反応性蛋白と虚血性疾患の関係: 久山町研究」
- Maebuchi D, et al. Arterial stiffness and QT interval prolongation in a general population: the Hisayama Study. Hypertens Res 31:1339-1345, 2008
「地域住民におけるQT延長と動脈硬化の関係: 久山町研究」
- Doi Y, et al. Fasting plasma glucose cutoff for diagnosis of diabetes in a Japanese population. J Clin Endocrinol Metab 93:3425-3429, 2008
「日本人における糖尿病診断のための空腹時血糖値の閾値に関する検討」
- Shikata K, et al. Population-based prospective study of the combined influence of cigarette smoking and Helicobacter pylori infection on gastric cancer incidence: the Hisayama Study. Am J Epidemiol 168:1409-1415, 2008
「地域住民における喫煙とヘリコバクタピロリ菌感染が胃癌発症に与える影響: 久山町研究」
- Asano K, et al. Impact of serum total cholesterol on the incidence of gastric cancer in a population-based prospective study: the Hisayama Study. Int J Cancer 122:909-914, 2008
「地域住民の追跡研究における血清コレステロール値と胃癌発症の関係: 久山町研究」
- Hagiwara N, et al. Polymorphism in the sorbin and sh3-domain-containing-1 (SORBS1) gene and the risk of brain infarction in the Japanese population: the Fukuoka Stroke Registry and the Hisayama Study. Eur J Neurol 15:481-486, 2008
「日本人におけるSORBS1遺伝子多型と脳梗塞リスクに関する検討: the Fukuoka Stroke Registryと久山町研究」
- Hagiwara N, et al. Polymorphisms in the lymphotoxin alpha gene and the risk of ischemic stroke in the Japanese population: the Fukuoka Stroke Registry and the Hisayama Study. Cerebrovasc Dis 25:417-422, 2008
「日本人におけるリンフォトキシンα遺伝子多型と脳梗塞リスクに関する検討: the Fukuoka Stroke Registryと久山町研究」
- Fujimi K, et al. Clinicopathological outline of dementia with lewy bodies applying the revised criteria: the Hisayama Study. Brain Pathol 18:317-325, 2008
「レビー小体型認知症の新しい診断基準に基づく臨床病理学的検討: 久山町研究」

- Song J, et al. Overexpression of heme oxygenase-1 in coronary atherosclerosis of Japanese autopsies with diabetes mellitus: the Hisayama Study. Atherosclerosis 202:573-81, 2008
「糖尿病剖検例の冠動脈におけるヘモオキシゲナーゼ-1の過剰発現: 久山町研究」
- Kawaguchi A, et al. Application of functional ANOVA models for hazard regression to the Hisayama data. Stat Med 27:3515-3527, 2008
「時間依存共変量を考慮に入れたスプライン比例ハザードモデルの久山町データへの適用」
- Shimazaki Y, et al. Intake of dairy products and periodontal disease: the Hisayama Study. J Periodontol 79:131-137, 2008
「乳製品摂取と歯周病: 久山町研究」
- Saito T, et al. Serum levels of resistin and adiponectin in women with periodontitis: the Hisayama Study. J Dent Res 87:319-322, 2008
「女性の歯周病患者における血清レジスチンとアディポネクチンレベルの関係: 久山町研究」

久山町研究の紹介

- 医歯薬出版株式会社出版の「医学のあゆみ」(2009年1月24日号)に久山町研究が特集された。
- 石橋達朗「高齢者に増加する加齢黄斑変性」学術会報No.868(2008- I): 85-89頁



賛助社員としてご支援ありがとうございます

平成20年度は団体2団体の方々から合計1,500,000円(平成20年4月～平成21年2月)を頂戴致しております。ここにご芳名を記して心より感謝の意を申し上げます。

団体申込

10口(1,000,000円) 医療法人社団 三光会 誠心リハビリテーション病院
5口(500,000円) 匿名 1団体

(敬称略)

賛助社員募集

本法人の活動にご賛同下さる方は、賛助社員としてご支援いただければ幸いです。個人1口1万円から団体1口10万円から、何口でも結構です。詳しくは、法人事務局までご一報頂きますか、または、法人ホームページをご覧ください。

HisayamaLIFE Newsletter 第4号

2009年3月26日発行
編集・発行: 一般社団法人 久山生活習慣病研究所
(担当: 斎藤 史郎)

http://www.hisayamalife.or.jp/ E-mail: info@hisayamalife.or.jp

〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1822-1
(ヘルスC&Cセンター内)

九州大学内事務局
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
(九州大学大学院医学研究院環境医学内)

TEL/FAX: 092-642-6284

HisayamaLIFE Newsletter

一般社団法人 久山生活習慣病研究所

第4号

2009年3月26日発行

平成20年度の活動

法人本部

会議

第8回理事会

(平成20年度 第1回理事会: 平成20年6月9日開催)

第4回社員総会

(平成20年6月9日開催)

- 平成19年度決算の承認
- 理事の選任
- 定款変更の承認

第9回理事会

(平成20年度 第2回理事会: 平成20年6月9日開催)

- 役員互選

第10回理事会

(平成20年度 第3回理事会: 平成20年12月5日開催)

- 新理事・新役員の選定



第10回理事会(挨拶される久芳新理事)

理事交代

平成20年6月9日

退任理事 水田 祥代(前九州大学病院長)
新任理事 久保 千春(九州大学病院長)

平成20年12月5日

退任理事 鮎川 正義(前久山町長)
新任理事 久芳 菊司(久山町長)
(副代表理事)

「一般社団法人 久山生活習慣病研究所」に名称変更

(平成20年12月1日)

わが国の公益法人制度改革に伴い施行された関連法令の規定により、当法人は名称変更を含む定款の変更・整備を行い(第4回社員総会にて承認)、平成20年12月1日の登記を以て「一般社団法人 久山生活習慣病研究所」となった。

■ 久山町研究ユニット

健診事業

久山町では定期的に乳幼児健診、がん検診、婦人科健診を実施している。また、毎年九州大学病態機能内科学、環境医学、眼科、精神科、歯科、中村学園大学と共同して住民健診を実施しており、本年度は平成20年7月10日から8月30日までの22日間行った。受診者数は2,184名にのぼり、40歳以上の住民の受診率はおよそ50%であった。

本年度は新たに九州大学呼吸器科のスタッフが参加し、全受診者に対して肺機能検査を行った。肺機能検査を受けた2,178名のうち、男性916名、16.8%が閉塞性換気障害、7.3%が拘束性換気障害、6.0%が混合性換気障害、女性1,262名のそれぞれ9.9%、3.2%、1.7%が同様の診断を受けた。わが国では地域住民を対象に肺機能障害の詳細な検討は為されておらず、貴重な成績と考えられる。



食習慣調査

平成19年度久山町成人健診において、中村学園大学が実施した食習慣調査(男性 1,396人、女性 1,829人)の結果。カルシウムの摂取量は、534mgで、国の平均摂取量546mg(2005年)と同レベルであった。摂取目標量との比較において「高摂取群(良好群)」は、男性46.5%、女性43.2%、「低摂取群」は、男性29.2%、女性28.4%であった。骨密度との関連を見ると、男性では高摂取群の骨密度は低摂取群に比して有意に高値であった。



調査の様子

平成20年度 厚生労働科学研究費大規模プロジェクト

平成20年度より、厚生労働科学研究費の課題「アルツハイマー病の危険因子の解明と予防に関する大規模ゲノム疫学研究」が採択された。この研究は、3つの目標を掲げている。第一に「地域住民におけるアルツハイマー病をはじめとする病型別認知症の実態を明らかにし、その危険因子・防御因子を解明する」、第二に「アルツハイマー病の遺伝的危険因子を解明する」、第三に「アルツハイマー病に対する食事・運動の介入研究を行いその予防手段を開発する」、である。本研究プロジェクト達成のため、本年度は、九大病院及び関連施設を受診しているアルツハイマー病患者のDNAサンプルを収集し、マイクロアレイ解析の準備が進められた。(共同研究者として九州大学 精神病態医学・脳神経病理施設・生体防御医学研究所・健康科学センター、理化学研究所、中村学園大学、久山町が参加している。)

文部科学省委託業務

「メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現」

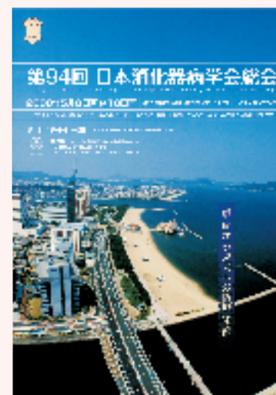
メタボリック・シンドローム関連疾患である脳梗塞、糖尿病などの遺伝要因を解明するため、平成20年11月より文部科学省委託業務として5年間の共同研究(研究代表者:東京大学・門脇 孝 教授)が開始された。九州大学では環境医学・清原 裕 教授、病態機能内科学・飯田 三雄 教授が分担研究者となり、脳梗塞関連遺伝子の同定、機能解析、ゲノム疫学研究を通してオーダーメイド医療の実現を目指す。

「動脈硬化性関連遺伝子、およびその利用」国際特許出願

「動脈硬化性関連遺伝子、およびその利用」の国際特許出願手続きが完了した。国際出願した国/地域は、日本、アメリカ合衆国およびヨーロッパである。出願により各国で審査が開始される。

第94回消化器病学会総会 飯田 三雄 会長の講演

平成20年5月8日から10日までの期間、福岡国際会議場にて第94回日本消化器病学会総会(会長:飯田 三雄 九州大学病態機能内科学教授)が開催され「久山町研究と消化器疾患」と題して会長講演が行われた。



■ 臨床・病理研究ユニット

FSRデータベース(FSR-DB)を九州大学情報基盤研究開発センターへ移管

FSR福岡脳卒中データベース研究の基盤となる症例登録のデータベースシステムを、九州大学情報基盤研究開発センターへ移管した。これにより大幅なコスト削減と迅速なシステム対応が可能となった。

多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

脳卒中診療の根拠となるべきエビデンスを構築することを目的に、平成19年6月から開始した福岡脳卒中データベースの登録業務を九州大学病院、九州医療センター、福岡赤十字病院、福岡東医療センターの4施設から、聖マリア病院、新日鐵八幡記念病院、九州労災病院を加えた7施設に拡大した。平成21年2月末での同意取得患者総数は1,896例である。これらのデータ解析を行い臨床研究を進めている。平成21年3月開催予定の第34回日本脳卒中学会総会には15題を超える演題を登録し、講演を予定している。

脳梗塞におけるバイオマーカー探索、解析に関する共同研究

脳梗塞診断と治療の指標となる血中バイオマーカーの探索を目的として、三菱ケミカルホールディングスと共同研究を実施している。九州大学病院、九州医療センターに加えて聖マリア病院においても登録を開始し、平成21年3月4日現在、100例の症例をエントリーした。

脳梗塞急性期における有害事象に関する疫学調査

脳梗塞急性期における腎障害を中心とした有害事象発現の危険因子を探索する研究を行っている。九州大学病院、九州医療センター、福岡赤十字病院での入力作業は終了し、平成21年2月末現在およそ2,000例の症例の入力を終了した。新たに、福岡東医療センターと聖マリア病院での入力を開始し、来夏までには3,500例を超える入力を完了させる。

FSR福岡脳卒中データベース研究のホームページを開設

<http://fukuoka-storke.net/>



FDR福岡県糖尿病患者データベース研究(Fukuoka Diabetes Registry;FDR)

糖尿病患者の病態、治療、予後を調査するため、遺伝子解析を含む研究を開始した。九州大学病院、菊池内科医院、福岡赤十字病院にて1,657例の登録を終了した。(平成21年3月7日現在)